

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム		
所在地	中津川市手賀野403番地の5		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JivgyosyoCd=2171500313-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2Fユニットは男性3人女性6人で軽度者、重度者、年齢層も幅広いが会話も出来共に楽しく暮らせている。ほとんどベット上で過される方も2名いらっしゃる車椅子の必要な方も3名おられる居室は見晴らしも良く日当たりも良く満足して生活して頂いていると思います。
3Fユニットは2名の他に全員が車椅子を必要としベット上で過される方も数名おられるが廊下も広く移動もスムーズに行なえ重圧感はない。ホーム全体としては入浴は希望さえあれば毎日でも可能で有る事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の一人として、地域住民とも親密な関係を築いている。1階のホールを地域に開放し、音楽会や応急手当講習、敬老祝賀会などで地域住民を招き、交流を行なっている。地域交流会の様子は、写真満載のホーム便りに載せている。職員の気づきから、粥が炊ける電気釜を購入し、食事内容を工夫した結果、食欲が減退していた利用者に改善の効果が見られた。応急手当講習会を行ない、骨折した場合の応急手当や止血処置、AEDによる心肺蘇生、タオルを口に当てた避難訓練等で、対応力の強化に取り組んでいる。利用者の状態に合わせて生活環境を支え、日々楽しく和やかに、心地のよい暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度化に伴いケア理念を変更し、その人に合った介護体制に取り組み実践しているが、重度者と元気な利用者が共に暮らしている事に難しさを感じる	理念は、利用者が重度化しても、心地よい暮らしが送れるように、職員一人ひとりが日々意識をしながら、職員間で共有をしている。利用者の思いに寄り添い、心を通わせながら、和やかな暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長い年月を変わりなく地域の方々との交流は続いており、長寿会から小学校の福祉交流会や夏祭り、運動会、地域の主婦の介護実習等、途絶えることなく交流している	自治会員であり、地域の一員として交流をしている。1階のホールでは、各種のイベントや介護実習、福祉交流会などを継続して行っている。近隣からは、非常事態が起きた場合、直ちに協力してもらえる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂くために「いい日いい日介護の日」を地域の方々に実習に来て頂いている。今年で6回目の実習をしました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では市町村の職員、区長、長寿会、民生委員、消防団、防災関係の方々には欠席されることなく参加され、サラサ便りにて行事内容の報告を行い改善に努め質の向上に取り組んでいる	会議は、隔月に開催し、ホーム便りを紹介しながら、利用者の生活の実情を報告している。地域交流や消防訓練の評価、重度化に伴う外出支援、職員採用の課題を検討し、運営やサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の意見、介護相談員の意見等聞き入れながら、ケアサービスに活かせる様取り組んでいる	市の担当者へは、日頃から事業所の実情を報告している。各種の申請手続きや事故報告、独居者の困難事例を相談し、助言を得ている。市の介護相談員が、2か月毎に訪れ、サービスの質に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者やすべての職員が身体拘束の弊害を認識し例外外での拘束は行ってはならないと自覚して安全を確保し自由な暮らしの支援に努めている	身体拘束について、具体的な事例と弊害を認識し、拘束をしないケアを実践している。利用者の気持ちを汲み取り、不安のない環境づくりに努めている。体力のある若年男性利用者もあるが、同じ対応を行ない、心身の状態も安定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1～2回虐待についてのアンケート等を行い、虐待が見過ごされないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2Fユニットには必要性の有る利用様が居るが、身内に全くその気がなく活用する事が出来ない(本人は望んでいる) 3Fユニットは必要されている利用者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学して頂き、その時点でも説明を行っている 納得して頂き入所の手続きを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度だけだが、家族会を行い意見や要望を引き出せる場面を作っている。意見や要望等前向きに聞き入れる姿勢をもちサービスの向上に活かし運営に活かしている	管理者は、家族会で、事業所と家族の両輪で本人を支えることの大切さを伝え、遠方の家族へは、ファックスで、意見や要望を確認している。また、家族アンケートを実施し、その結果を踏まえ、運営やサービスの向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況や実情を直に知っている現場の意見や、提案を聞く機会を設け反映させてはいる	管理者は、職員から意見や提案を聴く機会を設けている。おむつとパッドの効果的な使用法や、常に、より良いケアとなるよう、意見や提案を聴いている。また、職員の資格取得を奨励し、向上心を持って働けるように 職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう日頃の努力や実績、勤務状況等の把握はされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、段階に応じた研修の中で学びの機会を確保している。職員が働きながら技術や知識を身に付けていく様に進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と市職員も交えてグループホーム部会等行い、研修の場を持ち交流会を行いサービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族からの状況等の食い違いが有る事も多いが、本人が困っていること要望等に耳を傾けながら、本人が安心して暮らせるよ支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決まった時点から家族や本人の意見に耳を傾け、良好な関係で安心して暮らせる日常生活を支援できる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々職員は介護する側だけではなく暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を一番大切に考え、その中でも職員とも絆が保てる様な関係作りをして共に楽しく暮らしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている馴染みの場所等継続して支援していきたいが、近年の家族関係は大変淡泊なものとなりました。本人がもどめる事についての支援は精一杯行っていますが、家族の協力が無いと困難となりました	馴染みの場所への外出は、重度化や家族の協力度によって、外出の機会にバラツキがあるものの、軽度の方は、近くの喫茶や買い物へ出かけている。1階のホールは、地域住民との交流の場でもあり、馴染みの関係を築いてる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切に楽しく日常生活が送れる様に、支え合って暮らせる支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や家族への支援をし交流しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の先の人生の事を考えながらアドバイスをしたり困った事等の相談も受け、本人本位に検討している	日々の会話や行動から、利用者の思いの把握に努めている。意思表示が困難な人は、そばに寄り添い、心の内を汲み取るよう努めている。利用者一人ひとりが、楽しく、心地よい生活を実感できるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が望んでいる事の把握に努め、家族と共に一番良いと思われたサービスの提供に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が望んでいる事の話聞きながら、出来る力を少しでも長く継続できるように支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・家族必要な関係者と話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、利用者の状態のモニタリングを行っている。サービス担当者会議で、家族を含めた、関係者の意見を集約し、本人が望む生活を支え、役割りや生きがいが持てるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに又、カンファレンス等で介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応してサービスの支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域、民生委員、消防、ボランティア、病院などの地域の方々の力を借りる取り組みをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診の他に本人家族の希望する医師にかかる支援をしている	本人・家族の希望で、協力医の往診を受けている。特別な疾患の人は、専門科の受診を継続している。協力医とは、24時間の連絡体制があり、急変時にも対応ができています。救急隊員に手渡す、利用者の個別対応表を備えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを医師に相談しながら、適切な受診を受けられる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院できる様病院関係者と相談に努めている。病院関係者とは良い関係づくりが出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した現状は終末支援のあり方や事業所の対応は家族・医師との連携を図りながらチームで共有しながら行っている。家族のいない入居者に対する終末期は医師、職員と話し合い、終末ケアに取り組んでいる	重度化や終末期の方針を文書化して、家族に説明し、理解を得ている。段階的に、家族と医師、関係者で話し合い、方針を共有しながら、終末期の支援に取り組んでいる。看取りの実績があり、体験から多くを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回の応急手当の訓練を実施しているが体調不良時は責任者への連絡を怠らない様に努めている。実際の場面で活かせる技術を身につけたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず利用者が非難できる様に職員連絡網をピラミット型にし遠方の職員でも30分以内には参集できると共に地域住民との協力体制も築けている。消防訓練にも参加して頂いている	報知機の位置確認、防火扉の開閉作業の見極め、通報・電話連絡など、迅速に対応できるよう訓練している。事業所建物の2・3階が生活の場であり、階段踊り場まで、タオルを口に当てながら、避難する訓練を行っている。備蓄も整え、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほこりやプライバシーの確立については、常に全職員で話し合いを行っている。とくに言葉かけによって利用者に変化が表れるため	利用者一人ひとりを、人生の先輩として尊重し、自尊心やプライバシーを傷つけないように対応をしている。職員は、利用者個々の要求や、生活のリズムを把握し、温かみのある言葉づかいと、優しいスキンシップで接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の目、行動の中から希望や相談が有るらしい事は感じ取れる為、相談しやすい雰囲気を持ち対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせた介護はしてはならないと職員間で話し合い、一人ひとりの家族関係の中からその人に合った暮らしの支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援できる様に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い食事作りを一緒に行う事は少なくなったが食事の片付けは利用者手伝って頂き共に生活をしている	食事づくりは、職員が腕前を発揮し、調理をしている。利用者も、出来る人が準備や片付けを自発的に手伝っている。職員と同じものを一緒に食べながら、若い時の思い出話に花を咲かせて、美味しさと楽しさを共有している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	知識や意識を持ち、バランスの良い食生活が出来る様に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後は全員が口腔ケアを行い、一週間に一度はポリデントの実施をしている(希望で3日に一度はしている方もいる)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ減らしに努め、トイレでの排泄に心掛け支援している。又排泄時間の把握が出来る様に記録をしている。	個々の排泄自立度に合わせて、トイレへ誘導している。2階の各部屋には、トイレがあり、3階は、ポータブルトイレを備えている。夜間は、コールボタンを押してもらい、職員の迅速な対応で失敗を減らし、おむつの削減にもつなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては飲食物の工夫や運動への働きかけ等個々に応じて予防に取り組んでいるが困難な時もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事等有った時は入浴出来ないが職員の都合で中止する事はなく入浴して頂いている。希望されれば毎日でも可能。重度化に伴い2人体制で行わなくてはならない方もいる。	入浴は、毎日の希望にも応じ、重度者は、2人介助で、浴槽に入っている。利用者のその日の気分によっては、シャワー浴に変えたり、入浴の心地よさと、楽しさを味わえるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休憩の取れる時間帯の把握は出来ており、一日を無理をしない生活習慣となっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に対しての記録も有り常に症状の変化は目配り確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴も必要だと思うが、今求めている事を大切に日々穏やかに暮らせる事への支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い以前の様に散歩に出られる状態が少なくなってしまったのが本当に悲しいです。高齢で家族が面倒を見れない利用者が多くなり、ホーム内で楽しく暮らせる支援が多くなってしまったのが現実です。	重度者が、車椅子で昇降できるように改修を行い、前庭に出て、景色を眺め、外気に触れている。元気な人は、買い物や喫茶、外食、公園などへ出かけ、一部の家族が、遠方へのドライブに連れ出している。	重度者であっても、その人の状態に応じて戸外に出られることを、家族に説明し理解が得られるように期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が要求している場合には、家族の同意の下で買物をしているが本人自身がお金を持ち歩く事はありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が要求している場合には電話をする事も有るが、手紙のやり取りを行える利用者はいなくなりました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は車椅子で移動しても、十分な広さが有り、居心地良く過せる空間になっている	建物は、元病院の造りであり、十分な空間を有している。南に面し、観葉植物やハナキリンの鉢植えが鮮やかである。畳の間は、窓からの眺めもよく、カラオケを備えている。壁には、手づくり作品や記念の写真を飾り、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では皆と一緒にカラオケ、テレビ等楽しみ気の合った者同士会話がはずみ、楽しい雰囲気の中で生活出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は馴染みの家具を持ち込みグループホームらしい生活パターンが有りましたが、近年は荷物も少なく本人本位で自室を気に入った様に工夫されている	居室には、馴染みのものを置き、重度者の場合は、専用のエアーマットを備えている。入口には、暖簾と部屋間違いないように太字の表札がある。利用者が自分の部屋らしく、居心地のよい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招く事のない物品の使用は取り除き、安心して生活出来る環境を作っている		